

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	トヨタ自動車(株)新大口部品センター	階数	地上2階
建設地	愛知県丹羽郡大口町萩島二丁目9番	構造	S造
用途地域	市街化調整区域 地域指定なし	平均居住人員	100 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年6月 予定	評価の実施日	2019年5月20日
敷地面積	96,786 m ²	作成者	陳遜
建築面積	1,330 m ²	確認日	2019年6月1日
延床面積	2,490 m ²	確認者	陳遜



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.7 ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

標準計算
 ①参照値 100%
 ②建築物の取組み 78%
 ③上記+②以外の 78%
 ④上記+ 78%

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.1

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.8</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.0</p> <p>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">32.1 %</p> <p>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.3</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部 建物全体・共用部 廊下・宿泊部 住居・宿泊部分							全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	全体
		評価点	評価点	評価点							
Q 建築物の環境品質											
Q1 室内環境											
1 音環境											
1.1 室内騒音レベル					3.0	0.40				-	3.0
1.2 遮音					3.0	0.40				-	
1 開口部遮音性能					3.0	0.60				-	
2 界壁遮音性能					3.0	0.40				-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-	-				-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-	-				-	
1.3 吸音					3.0	0.20				-	
2 温熱環境											
2.1 室温制御					2.1	0.35				-	2.1
1 室温					3.2	0.50				-	
2 外皮性能		外壁U=0.34,窓SC=0.72			3.0	0.38				-	
3 ソーン別制御性					4.0	0.25				-	
2.2 湿度制御					3.0	0.38				-	
2.3 空調方式					1.0	0.20				-	
					1.0	0.30				-	
3 光・視環境											
3.1 昼光利用					3.3	0.25				-	3.3
1 昼光率					3.8	0.30				-	
2 方位別開口					3.0	0.60				-	
3 昼光利用設備		ハイサイドライトとライトシェルフによる昼光利用			5.0	0.40				-	
3.2 グレア対策					3.0	0.30				-	
1 昼光制御					3.0	1.00				-	
3.3 照度		全般照度500lx以上			4.0	0.15				-	
3.4 照明制御					3.0	0.25				-	
4 空気質環境											
4.1 発生源対策					4.0	0.25				-	4.0
1 化学汚染物質		ホルムアルデヒド放散量F☆☆☆☆かつ竣工時化学物質濃度測定を行う			5.0	0.50				-	
4.2 換気					3.6	0.30				-	
1 換気量		「建築基準法(シックハウス対応も含む)」を満たす換気量の1.2倍とする。			4.0	0.33				-	
2 自然換気性能					3.0	0.33				-	
3 取り入れ外気への配慮		汚染源の無い方位に設け、各種排気口と6m以上離れて設置する。			4.0	0.33				-	
4.3 運用管理					2.0	0.20				-	
1 CO ₂ の監視					1.0	0.50				-	
2 喫煙の制御					3.0	0.50				-	
Q2 サービス性能											
1 機能性											
1.1 機能性・使いやすさ					3.6	0.40				-	3.6
1 広さ・収納性					3.0	0.40				-	
2 高度情報通信設備対応					3.0	0.50				-	
3 バリアフリー計画		独自			-	-				-	
1.2 心理性・快適性					4.0	0.30				-	
1 広さ感・景観 (天井高)					4.0	0.33				-	
2 リフレッシュスペース		事務室天井高さCH=2.8m リフレッシュスペースは事務室の4.7%かつ自販機設置予定			5.0	0.33				-	
3 内装計画					3.0	0.33				-	
1.3 維持管理					4.0	0.30				-	
1 維持管理に配慮した設計		防汚性に高い建材を採用し、エントランスに1次扉と2次扉を設けている。			4.0	0.50				-	
2 維持管理用機能の確保		清掃用具の保管場所確保、各所に流しの設置を行っている。			4.0	0.50				-	
2 耐用性・信頼性											
2.1 耐震・免震・制震・制振					3.0	0.31				-	3.0
1 耐震性(建物のこわれにくさ)					3.0	0.48				-	
2 免震・制震・制振性能					3.0	0.20				-	
2.2 部品・部材の耐用年数					3.1	0.33				-	
1 躯体材料の耐用年数					3.0	0.23				-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		②			3.0	0.23				-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					3.0	0.09				-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔					3.0	0.08				-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔					4.0	0.15				-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		給水・雑排水・汚水排水管はG以上を満たす。			3.0	0.23				-	
2.4 信頼性					3.2	0.19				-	
1 空調・換気設備					3.0	0.20				-	
2 給排水・衛生設備					4.0	0.20				-	
3 電気設備					3.0	0.20				-	
4 機械・配管支持方法					3.0	0.20				-	
5 通信・情報設備		②			3.0	0.20				-	

3 対応性・更新性				3.5	0.29			-	3.5
3.1 空間のゆとり				4.6	0.31			-	
1 階高のゆとり			全てのフロアでH=3.9m以上	5.0	0.60			-	
2 空間の形状・自由さ			各階の壁長さ比率は0.3以下	4.0	0.40			-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31			-	
3.3 設備の更新性				3.1	0.38			-	
1 空調配管の更新性		②	構造材を痛めることなく、修繕・更新可能	3.0	0.17			-	
2 給排水管の更新性				4.0	0.17			-	
3 電気配線の更新性				3.0	0.11			-	
4 通信配線の更新性				3.0	0.11			-	
5 設備機器の更新性				3.0	0.22			-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.22			-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30			-	3.1
1 生物環境の保全と創出		独自③		2.0	0.30			-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	公共空間からの良好な景観形成、調整池の一部開放、周辺建物への配慮	4.0	0.40			-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.0	0.30			-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		3.0	0.50			-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50			-	
LR 建築物の環境負荷低減性									3.7
LR1 エネルギー									4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI _m =0.73	5.0	0.30			-	5.0
2 自然エネルギー利用			自然採光システム	4.0	0.20			-	4.0
3 設備システムの高効率化			[BEI _m]=0.70	4.0	0.30			-	4.0
4 効率的運用				3.5	0.20			-	3.5
集合住宅以外の評価				3.5	1.00			-	
4.1 モニタリング			用途別にエネルギー量を把握している	4.0	0.50			-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50			-	
集合住宅の評価				-	-			-	
4.1 モニタリング				-	-			-	
4.2 運用管理体制				-	-			-	
LR2 資源・マテリアル									3.4
1 水資源保護				3.8	0.15			-	3.8
1.1 節水			節水型便器の採用	4.0	0.40			-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.6	0.60			-	
1 雨水利用システム導入の有無			雨水利用システムの採用	4.0	0.67			-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.4	0.63			-	3.4
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.07			-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24			-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		② 独自	-	3.0	0.20			-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			【内装材】吸音板・【ビニル系床材】ビニル床シート・【磁器質タイル】汚垂タイル	5.0	0.20			-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	0.05			-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				3.0	0.24			-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.3	0.22			-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			タイルカーペット接着剤(ペンリタイン)	4.0	0.32			-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68			-	
1 消火剤				-	-			-	
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50			-	
3 冷媒				3.0	0.50			-	
LR3 敷地外環境									3.4
1 地球温暖化への配慮		①	換算スコア=3.8	3.8	0.33			-	3.8
2 地域環境への配慮				3.1	0.33			-	3.1
2.1 大気汚染防止				5.0	0.25			-	
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50			-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.5	0.25			-	
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25			-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			-	
3 交通負荷抑制		独自	駐車場の確保、駐車位置や台数を適切に配置する。	5.0	0.25			-	
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25			-	
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33			-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			-	
1 騒音		独自		3.0	1.00			-	
2 振動		独自		-	-			-	
3 悪臭				-	-			-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40			-	
1 風害の抑制				3.0	0.70			-	
2 砂塵の抑制				-	-			-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30			-	
3.3 光害の抑制				4.4	0.20			-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			チェックリスト項目の過半を満たし、広告物照明を行っていない。	5.0	0.70			-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

トヨタ自動車(株)新大口部品センター 事務所様

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.8
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.8	0.10	
② 資源の有効活用				3.3
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.5	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.4	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:32.1%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	<ul style="list-style-type: none"> ・事務所棟は物流センターで働く人々の快適性、安全性、を重視した計画とした。 <ul style="list-style-type: none"> ・物流センターの顔として、周囲の建物の形状や位置に配慮した高さ設定、色彩計画とした。 ・周囲の景観に配慮した植栽計画を行った。 ・自然エネルギーシステムの積極的な採用を行った。
Q1 室内環境	<ul style="list-style-type: none"> ・事務所棟は物流センターで働く人々の快適性、安全性、を重視した計画とした。 <ul style="list-style-type: none"> ・物流センターの顔として、周囲の建物の形状や位置に配慮した高さ設定、色彩計画とした。 ・周囲の景観に配慮した植栽計画を行った。 ・自然エネルギーシステムの積極的な採用を行った。
Q2 サービス性能	<ul style="list-style-type: none"> ・自然採光による快適な執務空間の実現。 ・建築材料の規制対象外もしくは告示対象外の使用。 ・リフレッシュスペースを十分に確保する。 ・清掃用具の保管場所を十分に確保する。
Q3 室外環境(敷地内)	<ul style="list-style-type: none"> ・街並み、景観に配慮した立面計画とした。 ・調整池の一部開放を計画した。 ・南側の緑地を配置することで、全面道路に対する景観に配慮した。
LR1 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・ハイサイドライトやライトシェルフによる自然採光システムを積極的に採用した。 <ul style="list-style-type: none"> ・雨水利生システムを採用し、水資源の省エネを図った。 ・用地別に消費エネルギーを管理する。
LR2 資源・マテリアル	<ul style="list-style-type: none"> ・環境性能に配慮した外装材や屋根材を採用する。 ・建築材料は記載対象外もしくは告示対象外を使用する。 ・節水型の器具を採用する。
LR3 敷地外環境	<ul style="list-style-type: none"> ・渋滞緩和のため、目的に応じた適切な駐車スペースと台数、位置を計画した。 <ul style="list-style-type: none"> ・南側全面道路に面して植栽を計画することで、周辺環境へ配慮した。 ・光害抑制のため十分な検討を行い、広告物照明を行っていない。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な廃棄計画を行い、リサイクルに取り組む。